

課題と成果を考える

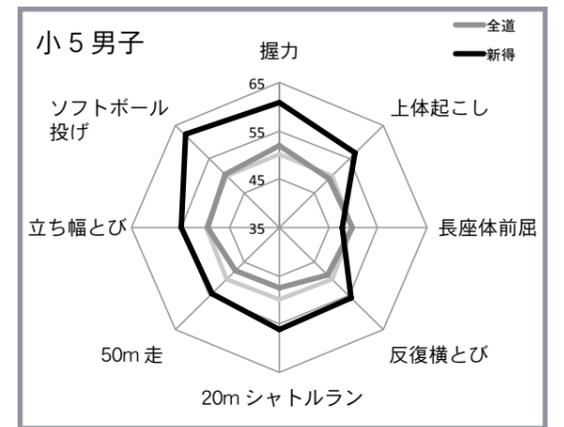
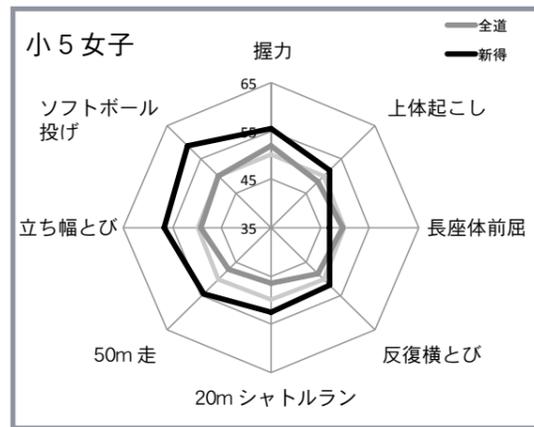
平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査

今回の調査概要

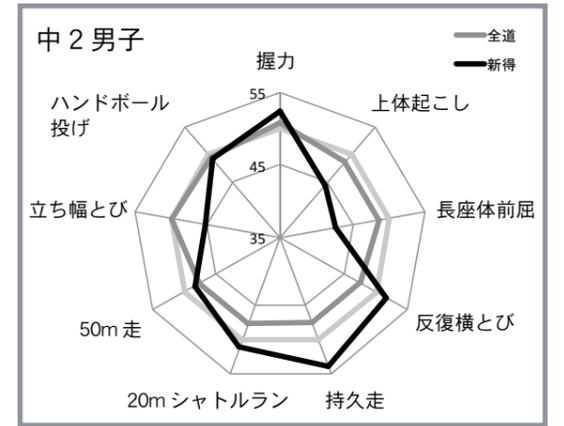
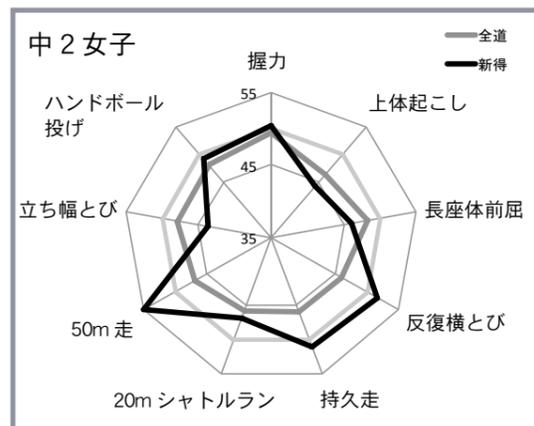
- 調査期日 平成27年7月
- 対象学年 小学校5年生、中学校2年生
- 調査内容
 - ①実技に関する調査
 - (1) 小学校調査
 - 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ
 - (2) 中学校調査
 - 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
 - ②質問紙調査
 - 運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

この調査は、全国的な子どもの体力の状況を把握し、分析することにより、子どもの体力向上に係る方策の改善を図るために毎年実施されています。

町教育委員会で、調査結果のポイントをまとめたのでお知らせします。



◎体力・運動能力調査



※上記のグラフは教科の領域別に全国を50とした場合の市町村の偏差値をレーダーチャートで示したものである。

柔軟性に課題

小学校では、男女ともに、8項目の調査のうち、7項目で全国・全道平均を上回る結果となりました。昨年度の調査結果においても「握力」、「反復横とび」、「20mシャトルラン」、「立ち幅跳び」、「ソフトボール投げ」で上回っており、投げの力と跳び力が高い傾向にあります。

一方、足を伸ばして座り、上半身を前屈させる「長座体前屈」では、昨年度に引き続き、全国・全道平均を下回る結果となりました。

中学校では、9項目の調査のうち、男女ともに「持久走」など4項目で全国・全道を上回る結果となりました。

昨年度の投げる力が高い傾向とは違い、この年においては、持久力が高い傾向にあります。



柔軟運動

りやすくなり、ランニングやテニスなどスポーツをする際に肉離れなどのけがをしやすくなっています。

お風呂上がりや運動後など、体が温まって、筋肉が伸びやすい状態にある時は、体を前に倒す柔軟運動がスムーズにできるようになりますので、毎日柔軟運動を続けることで、少しずつ柔軟性が増していく効果が期待できます。

課題解決に向けて

町教育委員会では、独自の分析及び、道教育委員会による分析結果を踏まえ、①子どもに進んで運動に取り組み、運動の楽しさや達成感を感じさせる、②学年ごとに具体的な到達目標を設定する、③子どもに目標を意識させる授業の実施の3つを取り組むことにより、運動をすることへの高い意識を持たせ、課題解決を図っています。

柔軟運動を毎日続ける

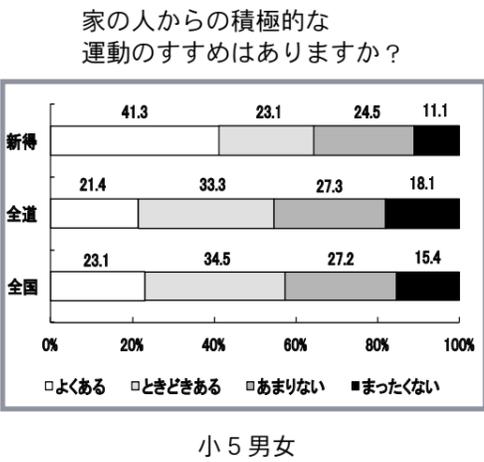
長座体前屈は、太ももの裏側（ハムストリングス）、腰部の柔軟度を測るものです。この数値が低下すると腰痛が起

◎運動習慣等調査

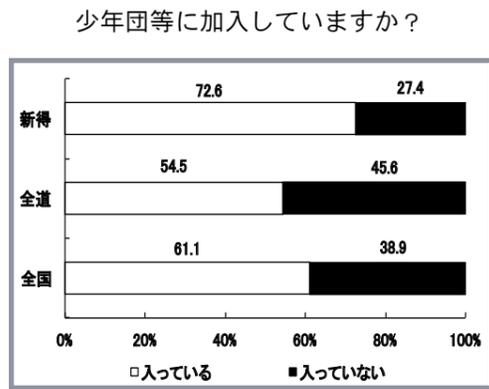
小中学校それぞれ31の質問があり、特徴的な結果を紹介しています。

小学校では、全国・全道平均と比べ、「家の人から運動やスポーツを積極的に勧める」と回答した児童が多くなっています。昨年度の調査結果でも同様の傾向が見られ、児童の多くが積極的に運動していることが伺えます。

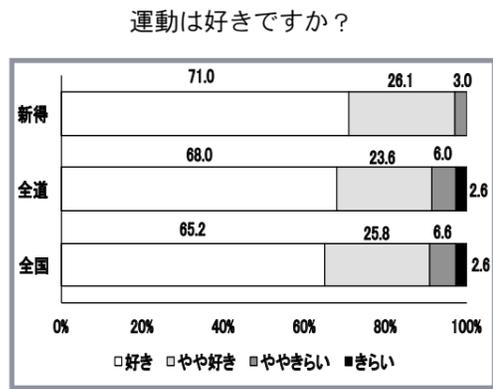
学校では、体育の授業において指導方法等の工夫・改善や授業以外に運動時間を確保する取り組みなどを行っており、「運動をすることが好き」と回答した児童が増えていると考えられます。（昨年の割合は89%、今年は97%）



小5男女



小5男女



小5男女

一方、「体育の授業で学習する内容は、将来に役に立つと思う」と回答した児童が少ないなどの課題がみられます。